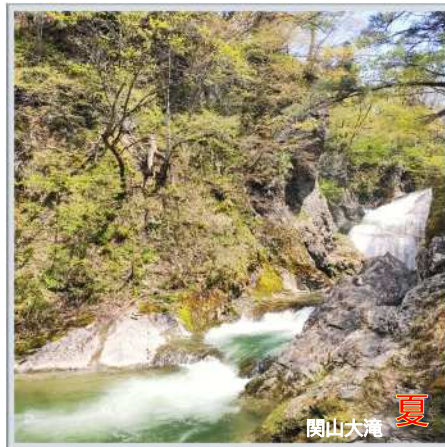


SDGs REPORT 2024

環境経営レポート〈実績報告〉

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日
発行：2024年5月27日



私たちは、地域の環境保全に寄与し、循環型社会の現実に貢献していきます。



クリーンシステム
CLEAN SYSTEM



クリーンシステムの情報閲覧はこちらからどうぞ
HP <http://www.csyam.com/>

クリーンシステム

検索

当社HPよりSNSもご覧いただけます。



Facebook



Twitter



Instagram

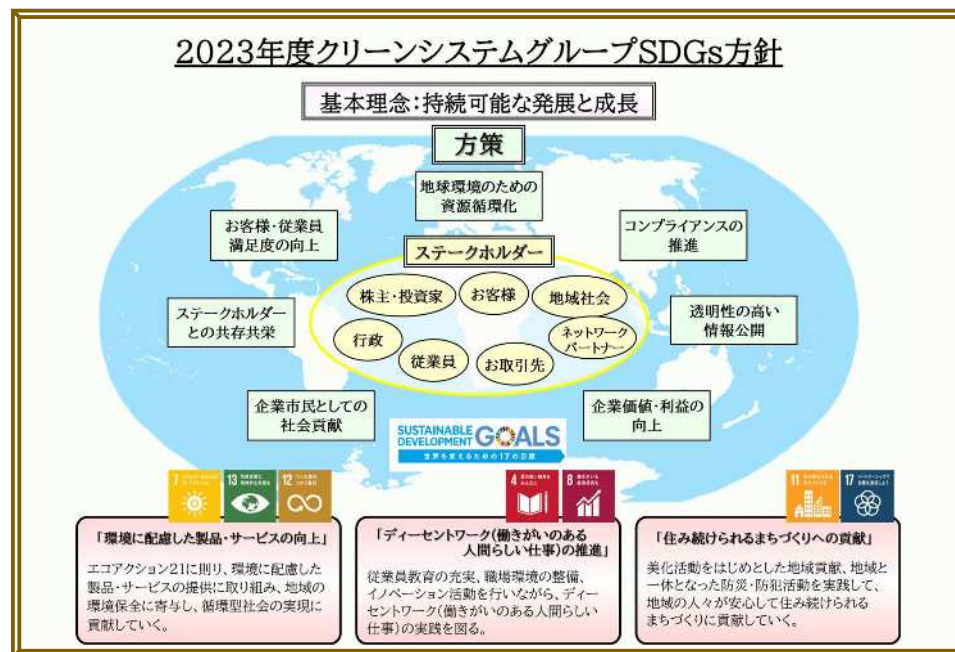
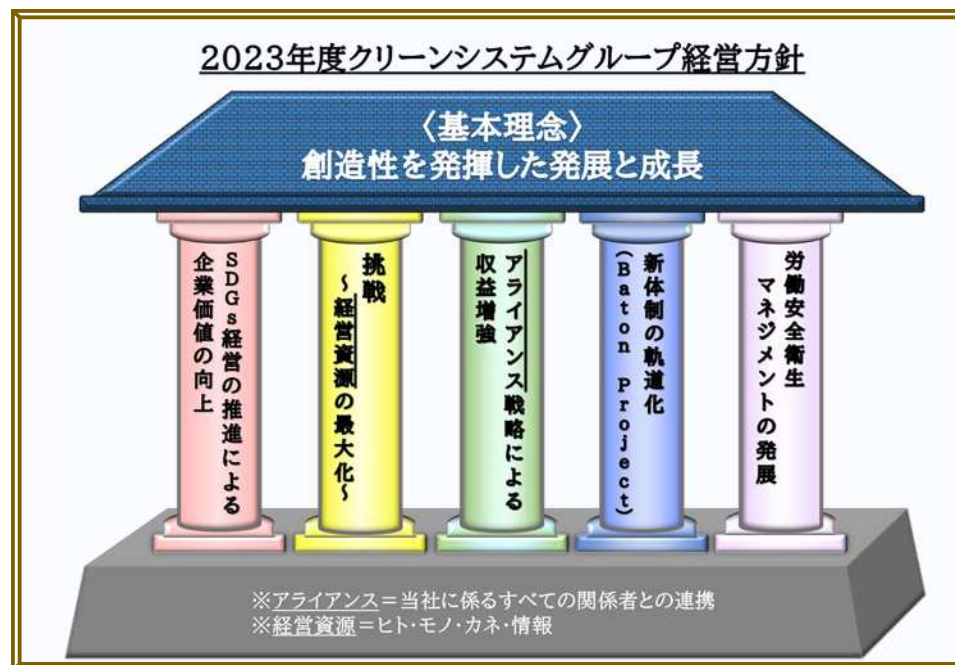


株式会社クリーンシステムは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

1.目次

項目	内容	頁数
1.目次		1頁～2頁
2.クリーンシステムグループ方針	・2023年度経営方針とCSR方針	2頁～3頁
3.企業概要	・概要 ・事業内容 ・エコアクション21登録内容 ・事業推移 ・組織図 ・2023年度部門方針	3頁～5頁
4.環境経営レポート(実績報告)		
①環境経営方針 企業理念・重点方針		6頁～7頁
②環境経営システム実施体制図		
③環境経営目標と実績・評価	I. CO2排出量 ・2023年度GHGプロトコルに基づく温室効果ガス排出実績一覧表 ・SBT認定取得 = CO2削減目標に向けての弊社の取り組み = II. 水道使用量 III. 廃棄物等の排出量 ・選別工場での残渣率減少の取り組み/化学物質使用量増加の原因 IV. 物損事故の削減 V. 地域貢献活動	7頁～14頁
④環境関連法規等の遵守状況の確認 評価結果、並びに違反・訴訟の有無		15頁～16頁
⑤代表者による全体の評価と見直し・指示/エコアクション21事務局より		16頁～17頁
⑥産業廃棄物処理業者としての情報公開		
1) 許可状況一覧	・産業廃棄物収集運搬業 ・特別管理産業廃棄物収集運搬業 ・産業廃棄物処分業	17～18頁～19頁
2) 収集運搬業	・一般廃棄物収集運搬業・処分業 ・車両一覧表及び低公害車両の導入状況 ・積替え保管施設・その他	19頁～20頁
3) 処分業	・本社：処理施設の概要 ・本社：処理工程図 ・関東支店：処理施設の概要・処理工程図	21～22頁～24頁
4) 処理実績	・収集運搬量（産廃・特管産廃・一般廃） ・処分量（産廃・一般廃）	25頁～26頁
⑦環境測定結果	公害防止協定に基づく環境測定	26頁～27頁
5.環境への取り組み		
リサイクル型解体工事業		27～28頁～29頁
バイオマス燃料【カーボンニュートラルに向けた弊社の取り組み】		29～30頁～31頁
自家消費型太陽光発電【太陽光発電システムの利用状況】		
CDP(気候変動)で「B-」スコアと評価されました		31頁～32頁
6.2023年度CSR活動実績一覧		32頁～33頁
「いざ」という時のために【心肺蘇生(AED)の講習会と地震を想定した避難訓練を実施】		
「やまがたスマイル企業」= DIAMOND = に認定		
芋煮フェス開催		
CSグループ安全衛生大会開催		
お越しいただいたお客様へ心を込めてプレゼント		
山形市社会福祉協議会様へ食品を寄贈		
山形市西公園に健康機能付きベンチを寄贈		
施設(場内)見学に多くの団体様が来社		
令和6年能登半島沖地震の義援金を寄付		
保育園にお散歩カートを寄贈		

2.クリーンシステムグループ方針【経営方針とCSR方針】



3.企業概要

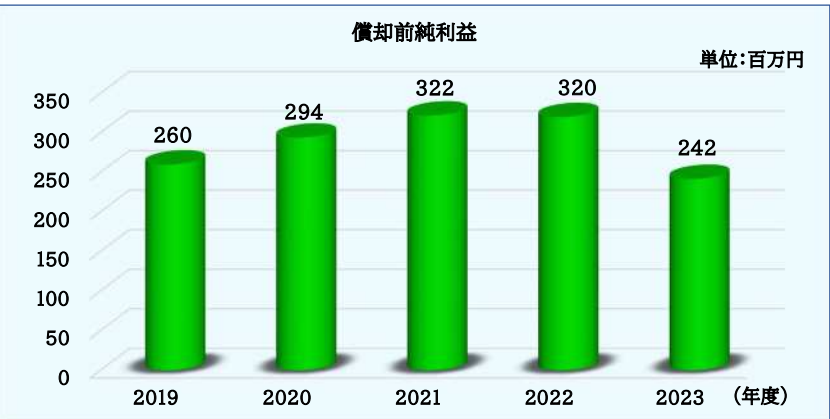
概要		
会 社 名	株式会社クリーンシステム (英) Cleansystem CO., Ltd	
代 表 者	代表取締役 鈴木 隆	
所 在 地	【本社】 〒990-0845 山形県山形市飯塚町字中河原1629番地の5 T E L 023-644-2228 F A X 023-644-7010	
	【CSRステーション】 〒990-2351 山形県山形市鑄物町6 西部工業団地内	
	【関東支店】 〒277-0804 千葉県柏市新十倉二7-8 十倉二工業団地内 T E L 04-7135-1253 F A X 04-7135-1263	
業 務 内 容	廃棄物リサイクル事業、廃棄物収集運搬事業、リサイクル型解体事業 P C B 調査・処理支援事業、アスベスト調査事業、 環境コンサルタント事業、I T 構築・運用支援事業	
法 人 設 立 年 月 日	1978年(昭和53年) 2月	
資 本 金 等	200百万円 (資本剰余金を含む)	
売 上 高	3,040百万円 (2023年4月～2024年3月)	
従 業 員 数	131人 (男性110人 女性21人) ※2024年4月1日現在	
関 係 会 社	株式会社オーガルホールディングス 株式会社県南チップ	
パ ー ト ナ ー シ ッ プ 企 業	東北クリーン開発株式会社 株式会社クリーンパワー山形	

事業内容	
特 定 建 設 業	山形県知事許可：解体工事業、建築工事業、土木工事業、とび・土工工事業
産 業 廃 棄 物 処 分 業	山形市・柏市
産 業 廃 棄 物 収 集 運 搬 業	山形県・宮城県・福島県・岩手県・秋田県・千葉県・茨城県・栃木県・埼玉県 群馬県・新潟市
特別管理産業廃棄物 収集運搬業	山形県・宮城県・福島県・秋田県・群馬県
一 般 廃 棄 物 処 分 業	山形市
一 般 廃 棄 物 収 集 運 搬 業	山形市・中山町
所 属 団 体	一般社団法人 山形県産業資源循環協会 一般社団法人 山形県解体工事業協会 山形再生骨材協同組合 N P O 北日本木材資源リサイクル協会 一般社団法人 日本R P F 工業会 一般社団法人 日本P C B 全量廃棄促進協会
取 引 銀 行	きらやか銀行(中央営業部) 山形銀行(本店営業部) 商工中金(山形支店) 七十七銀行(山形支店) みずほ銀行(山形支店)

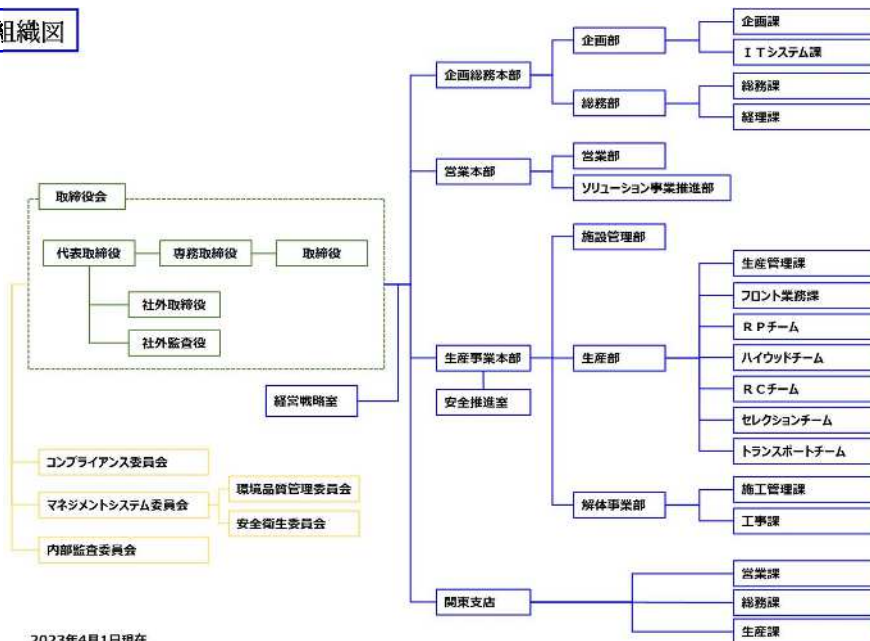
エコアクション21登録内容

業 務 内 容	産業廃棄物収集運搬業及び処分業 特別産業廃棄物収集運搬業 一般廃棄物収集運搬業及び処分業 解体工事業	
環 境 管 理 責 任 者	管理本部 取締役本部長 高田 裕太	※2024年4月現在
連 絡 担 当 者	生産部 生産管理課 石川 渉太	※2024年4月現在
登 録 範 囲	全組織・全活動	
対 象 取 組 み 期 間	2023年度(2023年4月1日～2024年3月31日)	

事業推移(2019年度～2023年度)



組織図



4. 環境経営レポート

①環境経営方針

企業理念

われわれは、当社の業務を通し、現在の豊かな自然環境を次代に継承していくため、創造性を発揮した発展と成長の考えの下、エコアクション21を構築・運用することにより、積極的に脱炭素社会への貢献に努めます。

重点方針

1. エネルギーの活用

CO2排出量削減・気候変動対応に即するため、省資源・省エネルギーはもとより、再生可能エネルギーの活用を図ります。

2. 環境経営目標の設定

環境経営方針を達成するため、技術的、経済的に可能な範囲で環境経営目標を設定し、必要に応じ見直しするなど、環境経営の継続的な向上に努めます。

3. 環境関係法規制等の順守

環境関連の法律・規則・条例等を遵守し、環境に悪影響を及ぼす物質の排出抑制、環境汚染の未然防止に努めます。

4. 持続可能な循環型社会の構築

サーキュラーエコノミー(循環型経済)の実現に寄与するため、ステークホルダーとのコミュニケーションを推進し、リサイクル製品の普及はもとより研究開発に努めます。

5. 社会への貢献

CSR活動及びSDGsの推進により、地域社会と融合した次世代クリーンシステムを構築するほか、ホームページでは廃棄物処理や資源循環等に関しても積極的に情報公開致します。

この環境方針は文書化し、全従業員に周知するとともに、社外に公表しその達成に努めます。

制定 2004年 8月12日

改定 2021年 5月25日

株式会社クリーンシステム

代表取締役 鈴木 隆

2023年度部門方針



②環境経営システム実施体制図



③環境経営目標とその実績・評価



I.【CO2排出量】

2023年9月にSBT認定を受け、Ecoアクション2-1の環境経営レポートにGHGプロトコルに準じた報告をまとめました。温室効果ガスの自社排出を抑制するだけでなく、サプライチェーン全体として温室効果ガスの排出量削減に努めてまいります。

2023年度環境経営目標と実績

対象項目内容

Scope1:会社で使用する燃料使用によるGHG排出（ガソリン・軽油・灯油）

Scope2:会社で使用する電気使用によるGHG排出（栃まち未来製作所）

Scope3:間接取引によるGHG排出（上記以外の事業活動に関連する他社の排出）



項目		2021年度 (基準年)	2023年度			2030年度
			実績	削減率 (2021年度比)	評価	排出量実績 目標
Scope1+2		2,817	2,122	▲24.7%	😊	1,410
単位 t-co2/年	Scope1	1,791	1,189	▲33.6%	😊	1,410
	Scope2	1,026	933	▲9.06%	😊	0
Scope3		45,667	41,809	▲8.45%	😊	31,967

（電力のCO2排出係数は、栃まち未来製作所の毎年度の調整後排出係数を使用する（2024年度の係数は、0.529kg-CO2/kwh(R5年12月22日公表））

2024年度～2030年度 中長期環境経営目標

項目		2021年度 (基準年)	2024年度 目標	2025年度 目標	2026年度 目標	...	2030年度 目標
Scope1+2		2,817	同等	同等	基準年より 36%減	...	基準年より 50%減
単位 t-co2/年	Scope1	1,791	基準年より 5.0%減	基準年より 7.5%減	基準年より 10%減	...	基準年より 21.3%減
	Scope2	1,026	同等	同等	基準年より 100%減	...	基準年より 100%減
Scope3		45,667	基準年より 4.3%減	基準年より 8.5%減	基準年より 12.9%減	...	基準年より 30%減

環境経営計画に基づき実施した取組内容・評価

主な取組内容と取組結果並びに次年度の取組内容

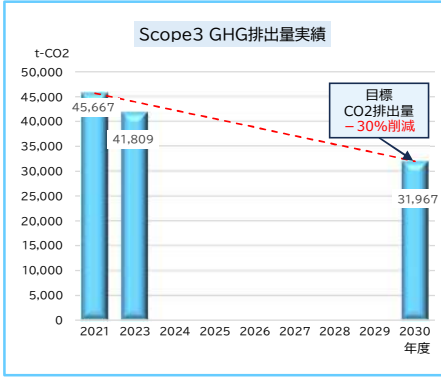
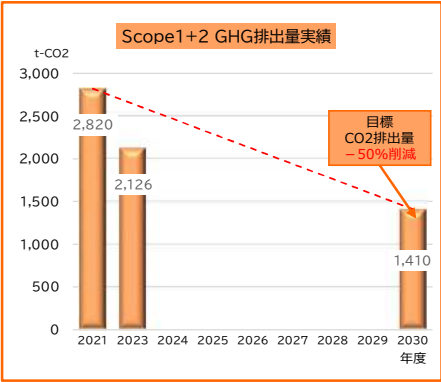
項目	主な活動内容(2023年度)	評価	次年度の活動内容
CO2 排出 量	電気使用量 ・クールビズ、ウォームビズの実施 （室内温度 冷房28℃程度、暖房22℃程度） ・生産/処理効率向上 ・デマンド監視によるピークシフト ・照明、空調機の定期点検、維持管理	○	2023年度の活動内容と同じ
	軽油、ガソリン使用量 ・エコドライブの促進 （急発進・急加速の排除、アイドリングストップの実施） ・エコカー、省エネ設備・重機等の導入 ・重機の作業効率改善 ・業者委託及び社内で定期点検を実施	○	※2030年度までの目標 ・省エネ車の導入 ・低炭素重機の導入 ・次世代燃料の採用
	灯油、LPG使用量 ・効率的な作業計画（F/L） ・暖房時の室温管理（冬期間） ・適切な温水利用	○	

I.【CO2排出量】

2023年度 GHGプロトコルに基づく温室効果ガス排出実績一覧表

Scope、カテゴリ毎のCO2排出量

項目		CO2排出量 (t-CO2/年)	備考
Scope1+2		2,122	2030年度までに50%削減
Scope1	ガソリン (2.32kg-CO2/L)	76	
	軽油 (2.58kg-CO2/L)	1,109	
	灯油 (2.49kg-CO2/L)	3	
	L P G (3.00kg-CO2/kg)	1	
Scope2	電力消費	933	
Scope3		41,809	2030年度までに30%削減
カテゴリ1	購入物品サービス	485	
カテゴリ2	資本財	395	
カテゴリ3	燃料エネルギー関連活動	297	
カテゴリ4	輸送（上流）	678	自社手配の運搬
カテゴリ5	廃棄物	18,150	
カテゴリ6	出張	8	
カテゴリ7	通勤	111	
カテゴリ8	リース資産（上流）	0	該当なし
カテゴリ9	輸送（下流）	1,548	取引先手配の運搬
カテゴリ10	販売製品の加工	2,403	原料チップ、金属、有価ブラ
カテゴリ11	販売製品の使用	17,734	RPF(固形燃料)、燃料チップ
カテゴリ12	販売製品の廃棄	0	
カテゴリ13	リース資産（下流）	0	該当なし
カテゴリ14	フランチャイズ	0	該当なし
カテゴリ15	投資	0	該当なし



グリーンシステムグループでは、2023年9月にSBT認定を取得し、事業活動に伴う温室効果ガス排出量の削減目標を定め、積極的に取り組んでおります。
弊社の具体的な取り組み内容は次のページに記載してあります。

SBT認定取得 =CO2削減目標に向けての弊社の取り組み=

SBT(Science Based Targets)認定とは

「地球の気温上昇を産業革命前と比べて1.5℃未満に抑える」というパリ協定で掲げられた目標に対し、弊社が設定したGHG排出量の削減目標が科学的に整合しているとして認定されたものです。

山形県内に本社を置く会社としてはまだ数少ない認定取得となりました。

2018年度にそれまで取り組んできた事業活動やCSR活動をSDGs活動として定め、2021年度にはエコアクション21認証に取得、そして2023年度にはSBT認定、CDP質問書への回答に取り組みました。

最近では、異常気象による自然災害が毎年のように発生しており、この山形においても決して他人事ではないと実感しています。

温暖化を食い止めるためにも、少しでもカーボンニュートラルに向けた取り組みに参画し、山形の環境事業者として社会的責任を果たし、積極的に地域の持続可能な発展に貢献してまいります。

弊社では「守ろう、地球。創ろう、未来。」というスローガンのもと、持続可能な事業活動をさらに強化し、社会のためにそして地元である山形県のために、国際的な基準の目標設定および情報公開を行い、地域の持続可能な発展に貢献していきたいと考えております。

Scope1

省エネトラック・自動車の導入推進
水素/電池/ハイブリット車など



低公害車への入れ替えを随時行っております。
導入状況は19ページをご覧ください。

低炭素重機の導入
電動式重機/水素燃料/バッテリー式など



まだ日本は、軽油を使用した重機が多いのですが、欧州ではバイオ燃料等を利用した次世代重機への取り組みが進んでおります。
低炭素重機の情報収集を継続的に実施。

GTL燃料等の次世代燃料の採用



営業・総務等で使用している普通車両は、電気自動車や燃費のよいハイブリット車両へ切替しております。
本社には2か所に電気自動車用の充電設備を完備しており、電気自動車への切替も可能な状態です。

Scope2

再生可能エネルギー電源への切り替え

再生可能エネルギーとは(一例)



Scope3

自社から排出する《二次処理含む》廃棄物の処理方法を精査する

例)処理優先を再確認する。

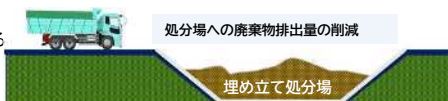
RPF>焼却

オガツ粉>原料チップ>燃料チップ>焼却

輸送距離を抑えるため、製品及び処分物は出来る限り地産地消を目指す

長距離輸送についてはモーダルシフトなど低炭素輸送を検討する
LCA/CFP製品の購入を優先する

取引先に対してGHG排出削減目標を設定することを促す



地産地消

購入品の切替



③環境経営目標とその実績・評価

Ⅱ.【水道使用量】

(※1: 実績値/目標値又は実績値/目標値で表示した)

(※3: 🟡…達成率105%超、🟠…達成率95-105%、🟡…達成率90-95%、🟡…達成率90%未満)



2023年度環境経営目標と実績

	2022年度実績 (基準値)	2023年度				
		目標		実績値	達成状況 ^(※1)	評価 ^(※3)
水使用量削減 (m ³ /年)	87,201	基準値 同等	87,201	70,955	122.9%	😊
上水使用量 (m ³ /年)	1,528	基準値 同等	1,528	 3,149	48.5%	😞
地下水使用量 (m ³ /年)	85,673	基準値 同等	85,673	67,846	126.3%	😄

2024年～2030年度 中長期環境経営目標

	2021年度実績 (基準値)	2024年度 目標値	2025年度 目標値	2026年度 目標値	…	2030年度 目標値
水使用量削減 (m ³ /年)	92,975	現状維持				現状維持
上水使用量 (m ³ /年)	2,250					
地下水使用量 (m ³ /年)	90,725					

環境経営計画に基づき実施した取組内容・評価

主な取組内容と取組結果並びに次年度の取組内容

項目	主な活動内容(2023年度)	評価	次年度の活動内容
水使用量	・トイレ、手洗い、洗車時の節水励行 (感染流行時は除く) ・洗車ガン付きホースの使用	○	2023年度の活動内容と同じ
地下水使用量	・散水状態の管理 ・無散水融雪設備の維持管理	○	

事務所内の手洗い場はすべてセンサー水栓を採用し、節水に努めております。



洗車用のホースには手元で操作ができるスプレーガンを使用しております。



=2023年度の上水使用量増加した原因=
解体事業部(解体工事現場)部門の上水使用量が目標値: 214m³に対し、1,995m³と増えておりました

解体部門の上水使用量が増えたのは、解体工事時の散水が大きな要因です。
散水は解体工事中に発生する粉じんの飛散を抑制するのに有効な方法であり、解体現場の周辺環境や通行人、住宅、作業員の健康を守るために必要なものであり、問題ないと評価しています。



作業場内で使用する粉じん飛散防止用散水機です。
この散水機は無人で広範囲に散水できるように改良してあります。

このように粉塵対策として解体作業中は放水を行います。

③環境経営目標とその実績・評価

Ⅲ.【廃棄物等の排出量】

(*1: 実績値/目標値又は実績値/目標値で表示した

(*3: 😊…達成率105%超、😄…達成率95-105%、😌…達成率90-95%、😐…達成率90%未満



2023年度環境経営目標と実績

項目	2022年度実績 (基準値)	目標	実績値	達成状況 (*1)	評価 (*3)
廃棄物排出量削減 (kg/年)	75,696	基準値 同等	75,696	65,340	116% 😊
一般廃棄物排出量 (kg/年)	2,830	基準値比 0.1%減	2,827	2,869	99% 😊
産業廃棄物排出量 (kg/年)	72,866	基準値 同等	72,866	62,471	117% 😊
建設廃棄物 リサイクル率アップ (w t %/年)	83.5	基準値比 0.1%増	83.6	88.5%	106% 😊
化学物質使用の 適正管理削減 (kg/年)	13.4	基準値 同等	13.4	17.8	75% 😐
受託産業廃棄物の リサイクル率アップ (kg/年)	本社: 90.2 関東支店: 92.2	基準値比 0.1%増 基準値比 0.1%増	90.3 92.3	91.1% 92.2%	101% 😊 100% 😊

2024年度～2030年度 中長期環境経営目標

項目	2021年度実績 (基準値)	2024年度 目標値	2025年度 目標値	2026年度 目標値	...	2030年度 目標値
廃棄物排出量削減 (kg/年)	80,541	現状維持	現状維持	現状維持	...	現状維持
一般廃棄物排出量 (kg/年)	3,036					
産業廃棄物排出量 (kg/年)	77,505					
化学物質使用適正管理 (kg/年)	14.1	現状維持	現状維持	現状維持	...	現状維持
建設廃棄物リサイクル率 (w t %/年)	90.9					
受託産業廃棄物 リサイクル率 (w t %/年)	本社: 86.8 関東支店: 87.0					

環境経営計画に基づき実施した取組内容・評価

主な取組内容と取組結果並びに次年度の取組内容

項目	主な活動内容 (2023年度)	評価	次年度の活動内容
廃棄物排出量 一般廃棄物、 産業廃棄物排出量 (建設廃棄物を除く)	・会議資料・事務書類の電子化・簡素化 ・6S (整理・整頓・清掃・清潔・躰、作法) 活動 ・廃棄物の分別徹底	○	2023年度の活動内容と同じ
建設廃棄物の リサイクル率アップ	・分別解体工事の実践 ・石綿事前調査の実践	△	
化学物質使用の適正管理	・塗料等の数量管理 ・代替品の調査、検討	○	
受託廃棄物のリサイクル率アップ	・受託廃棄物の搬入管理を実施 ・創意工夫と徹底選別によるリサイクル率アップ ・可燃物のRPF化の検討	○	

Ⅲ.【廃棄物の排出量】

= 選別工程での残渣率減少の取組み =

最新の自動選別機(バリスティックセレータと風力選別機)に加え、作業員の手選別によりリサイクル可能な廃棄物を効率的に選別しております。

効率よく、より多くの資源物を選別するための施設

手選別ライン

バリスティックセレータの導入により、手選別ラインでの選別作業の負荷が大幅に軽減されました。

処理能力 320m³/日 8h

プラスチックやビニール類

RPF原料

軽量物 細粒物 重量物

手選別ラインへ

手選別ラインでは、バリスティックセレータで分別された重量物からリサイクルできるプラスチックや木、非鉄金属等を取り分別する作業をしています。

= 化学物質使用量の適正管理削減の実績値が目標値より増えた原因について =

2023年度は、目標値:13.4kgに対し、17.8kgと約4kg増加しました。😞

弊社では、依頼された廃棄物の種類や量に合わせ、各サイズのコンテナを保有しております。コンテナからの廃棄物の漏洩、流出防止のため、使用後点検し、劣化やさびが見つかったコンテナについては、場内で塗装修理をし、劣化が著しいコンテナについては新規作成し、新しいものと交換しております。コンテナを製作又は修理する際は塗料を使用しています。2023年度はコンテナの製作・修理が増加したため、塗料(化学物質)の使用量が増加しました。

Before

コンテナを長く、安全に使用するためにも、定期的なメンテナンスをおこなっております。

After

サビ、腐食等で劣化がひどく、場内での修繕ができないコンテナは処分し、新しいコンテナに入れ替えます。
※処分するコンテナは、リサイクル業者に委託します。

コンテナの新規製作は取引のある鉄工所へお願いしていますが、塗料は弊社で購入したものを支給しています。

サビやスチッカーなどやすりで丁寧に削り、塗装します。

社内で修繕可能なコンテナは施設管理部で修理します。

修理後のコンテナ

③環境経営目標とその実績・評価

IV.【物損事故の削減】

(*1: 実績値/目標値又は実績値/目標値で表示した

(*3: 🟡…達成率105%超、🟠…達成率95-105%、🟡…達成率90-95%、🟡…達成率90%未満

2023年度環境経営目標と実績

	2022年度実績 (基準値)	2023年度			
		目標	実績値	達成状況(*1)	評価(*3)
物損事故件数 (件/年)	8件	—	10件以下 12件	83.3%	🟡

2024~2030年度 中長期環境経営目標

	2021年度実績 (基準値)	2024年度 目標値	2025年度 目標値	2026年度 目標値	...	2030年度 目標値
物損事故件数 (件/年)	12件	10件以下				

環境経営計画に基づき実施した取組内容・評価

主な取組内容と取組結果並びに次年度の取組内容

項目	主な活動内容(2023年度)	評価	次年度の活動内容
物損事故削減	・KYTの実施 ・ヒヤリハットの提出、対策 ・週間重点目標の設定・KYTの実施 ・安全パトロール ・ドライバー日誌情報、関連写真提出 ・職長会議の定期開催 ・指差し呼称の完全実施	○	2023年度の活動内容と同じ

2023年度クリーンシステム安全スローガン

年間スローガン 『高めよう! 一歩先読む安全意識 未来に繋げるゼロ災害』

季節スローガン

春 『話し合おう違う目線で危険予知 みんなで育てる安全意識』

夏 『あいさつと会話でつながる安全意識 声かけあって体調チェック』

秋 『整えよう 心と体のコンディション みんなで作ろう健康職場』

冬 『毎日変わる危険箇所 雪に埋もれる冬型労災 今掘り起こそう 危険の芽』

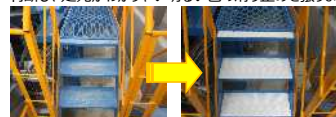
このスローガンは、毎年、各部署(チーム)で考え提出された標語の中から選ばれた作品です。

視点を替えるため、毎月メンバーを変え安全パトロールを実施しております。



切断機の作業台に明かりがなかったため、作業時の手元が暗く危険なので、作業台に照明を設置しました。

指差呼称で足元の安全確認を行っておりますが、鉄製の階段は靴底が濡れていたりすると滑りやすく危険と判断し、足元がわかりやすい色の滑り止めを張りました。

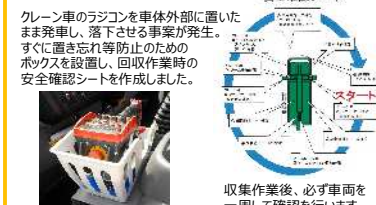


足元の安全「よし!」



弊社オリジナルキャラクターの「ヒヤリハット君」です。「ヒヤリに帽子(ハット)を被せたら、ヒヤリハットめいたな...」なんていうないない会話が生まれました。

「ハインリッヒの法則」= 「1:29:300の法則」
この法則の中の「異常」とは、重大な事故や災害につながるものの、一歩手前の状況、その状況のことを「ヒヤリハット体験」といいます。
弊社では通常のヒヤリハット活動の他、ヒヤリとなる以前の状態のものを注意喚起する「小」リスクヒヤリハット活動も行っており、社員の安全への意識の高揚に役立っています。
また、弊社オリジナルのキャラクター「ヒヤリハット君」を作成し、危険箇所にキャラクターを使用したシールを張り「見える化」による事故防止活動も行っております。



収集作業後、必ず車両を一周して確認を行います。

安全第一



③環境経営目標とその実績・評価

V.【地域貢献活動】

(*1: 実績値/目標値又は実績値/目標値で表示した

(*3: 🟡…達成率105%超、🟠…達成率95-105%、🟡…達成率90-95%、🟡…達成率90%未満

2023年度環境経営目標と実績

	2022年度実績 (基準値)	2023年度			
		目標	実績値	達成状況(*1)	評価(*3)
地域貢献活動の実施 (件/年)	22件	—	22件以上 24件	109%	🟡

2024年~2030年度 中長期環境経営目標

	2021年度実績 (基準値)	2024年度 目標値	2025年度 目標値	2026年度 目標値	...	2030年度 目標値
地域貢献活動の実施 (件/年)	22件	22件以上				

環境経営計画に基づき実施した取組内容・評価

主な取組内容と取組結果並びに次年度の取組内容

項目	主な活動内容(2023年度)	評価	次年度の活動内容
地域貢献活動の実施	・河川清掃、マイロード活動(8回) ・献血活動(2回) ・エコキャップ、プラスチックの回収(3回) ・山形市西公園ベンチ寄贈(1回) ・はやぶさ保育園へお散歩カートの寄贈(1回) ・山形市社会福祉協議会へ保存食寄贈(2回) ・学生、住民等の場内視察への対応(4回) ・非常時協定に基づく地域住民とのガソリン供給訓練(1回) ・山形市防災フェスティバルへの協力(1回) ・山形県総合防災訓練への協力(1回)	○	2023年度の活動内容と同じ

非常時を想定したガソリン供給訓練 (2年に1回実施)

2023年5月、飯塚町町内会様ならびに村木沢地区悪戸自治会様の代表者にお越しいただき、弊社のインタンク(燃料貯蔵施設)を活用した給油訓練を実施しました。
地震等の非常災害でガソリン供給が滞った際に、弊社備蓄燃料を近隣地域の方々に無償提供できるように、2020年より両会と非常時協定を締結しております。今回は実際のご提供の流れに沿って給油訓練を行った他、同じく非常災害時に地域に貸与可能な蓄電池の使い方について説明を行いました。
少しでも皆様に安心をお届けするべく、今後も地域との連携を強化して参ります。

停電中でも、この緊急用発電機をインタンクにつなぐことで、給油が可能になります。



入場の仕方から、給油の流れを、実践を想定して訓練しました。

災害時はガソリン提供の他にも、携帯電話の充電などに利用できる蓄電池などの貸し出しも行います。



小型蓄電池

マイロード清掃活動(年8回)

弊社ではSDGsの考えに賛同し様々な活動を行っております。その中に「海の豊かさを守ろう」「陸の豊かさを守ろう」という目標があります。残念ながらこの清掃活動で感じるのは、ポイ捨てや不法投棄が減っていないという現実です。
無責任に捨てられたごみは自然に還ることなく、環境問題に発展していきます。その現実を多くの人に伝えることができればいいという気持ちで、今後も清掃活動を続けていきたいと考えております。



自動車用のタイヤホイールが道路脇に落ちていました。



飯塚橋歩道の掃き掃除

献血活動の実施(年2回)

CSR活動、SDGsの取り組みの一環として、2023年度も10月と2月に2回献血ボランティアを実施し、総勢50名の弊社従業員が参加しました。
弊社は山形県献血サポート団体にも認定されており、今年で10年目を迎えました。今後も2030年と継続していけるように個人の健康管理に努め、また「献血サポート団体」として献血活動をはじめ、地域の皆様の支援につながるよう積極的に実施してまいります。



④環境関連法規等の遵守状況の確認・評価結果、並びに違反・訴訟の有無

弊社が遵守すべき主な環境関連法規等

環境関連法規等の名称	主な遵守すべき内容	遵守状況
労働安全衛生法	・就業制限（移動式クレーン：1 t 以上／玉掛け：1 t 以上 ガス溶接、フォークリフト：1 t 以上／重機） ・定期自主検査（天井クレーン／移動式クレーン／重機）	○
廃棄物処理法 (山形県条例) (秋田県条例)	・収集運搬/処分契約(排出事業者/廃棄物処理業者、解体工事を含む) ・マニフェスト管理(回付管理、帳簿の備付、交付状況報告、等) ・実績報告(産廃/一廃処理状況報告、多量排出事業者) ・廃棄物の保管基準、表示の管理 ・県外産業廃棄物処分に関する事前協議	○
建設リサイクル法	・請負契約、発注者への報告 ・分別解体、再資源化	○
消防法 (危険物に関する政令、 山形市火災予防条例)	・軽油・ガソリン地下タンクの管理 ・指定可燃物(再生資源燃料、紙くず、木くず、合成樹脂)の管理 ・少量危険物庫、灯油タンクの管理	○
フロン排出抑制法	・第一種特定製品(エアコン等)の点検及び記録の製品廃棄後3年保管 ・第一種特定製品廃棄時の回収依頼書(A票)、引取証明書(E票)の3年保管 ・解体工事では、元請業者からの第一種特定製品の事前確認書面を3年保管 ・第一種特定製品引取り時の引取証明書(E票)の確認、3年保管 ・二次事業者への引渡し時の引取証明書(E票)コピーの提出	○
浄化槽法	浄化槽の維持管理(保守点検、清掃、11条検査、等)	○
山形市との公害防止協定	・大気汚染防止法等に係る基準の順守 ・敷地境界における水質、騒音、振動、臭気の測定及び報告	○

＝法令等の違反、訴訟の有無＝

関係当局からの違反等の指摘、指導、及び環境関連訴訟はありません。
外部からの苦情、要望に対しては、コミュニケーション記録を作成し対応しております。

⑤代表者による全体の評価と見直し・指示

1. 環境経営方針の変更の必要性

・変更の必要はない。

2. 環境経営目標及び環境経営計画が、達成・実施されていない場合の処置

・CO2排出量の達成を確認した。SBT認証に基づく2030年目標に準拠すること。
・再生可能エネルギーへの転換や省エネ設備・車両等の導入を推進すること。
・安全対策を十分に実施すること。

3. 実施体制の変更の必要性

・2024年4月の組織変更を反映した実施体制の変更を確認した。

4. その他

・DXの取組を推進すること。

2024年5月24日
株式会社グリーンシステム
代表取締役 鈴木 隆

エコアクション21事務局より

2023年度はEMSをエコアクション21に切り替えてから初めての
更新審査が実施され、無事に更新することが出来ました。
関係各部の皆様におきましてはお忙しい中、審査に向けた
準備を進めていただきありがとうございました。



さて、2023年度に実施したこととして、老朽化したキュービクル式高圧受電設備の更新を行いました。
これに伴い変電効率が改善され、これまで無駄に消費されていた電力の抑制に繋がりました。
設備の更新に伴い、生産現場ごとの消費電力を正確に把握することが出来るようになりましたので、
今後は現場ごとの適正消費電力量を管理していくよう、注力してまいります。

また、2023年度にはCSグループとしてSBT認証を取得しました。
エコアクション21としては中長期目標をSBT認証にて設定しました「2030年度目標に準拠する目標
設定」に更新し、2030年までにSCOPE1 & 2におけるCO2排出量を基準年度である2021年度より
50%削減できるよう、再生可能エネルギーへの転換や省エネ設備・車両の導入を推進してまいります。
今後ともエコアクション21の適切な運用に努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

EA21事務局長 石川

⑥産廃処理業者としての情報公開 2024年(令和6年)3月31日現在

1)許可状況一覧

				産業廃棄物収集運搬業許可品目（○は積替え保管							
許可名称		届出先	許可番号	許可の有効期限	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず
産業廃棄物収集運搬業	優良認定	山形県	第00601008236号	自 平成31年3月27日 至 令和8年3月26日	○	○	○	○	○	○	○
		山形市	第13011008236号	自 平成31年3月27日 至 令和8年3月26日	○	◎	◎	◎	◎	◎	○
		岩手県	第00300008236号	自 令和5年3月7日 至 令和12年3月6日	○	○	○			○	○
		宮城県	第00400008236号	自 令和4年11月19日 至 令和11年11月18日	○	○	○	○	○	○	○
		秋田県	第00505008236号	自 令和5年3月24日 至 令和12年2月17日	○	○	○			○	○
		福島県	第00707008236号	自 令和5年6月1日 至 令和12年5月12日	○	○	○	○	○	○	
		栃木県	第00900008236号	自 令和4年2月18日 至 令和11年2月17日	○	○	○	○	○	○	○
		群馬県	第01000008236号	自 令和2年12月4日 至 令和9年12月3日	○	○	○	○	○	○	○
		埼玉県	第01101008236号	自 令和5年8月31日 至 令和12年7月4日	○	○	○	○	○	○	○
		千葉県	第01200008236号	自 令和元年12月10日 至 令和8年10月21日		○	○			○	○
		新潟市	第05902008236号	自 令和5年11月19日 至 令和12年11月18日		○	○			○	○
		茨城県	第00801008236号	自 令和元年7月8日 至 令和6年7月7日	○	○	○	○	○	○	○

				特別管理産業廃棄物（廃PCB及びPCB汚染物は低濃度PCBに限る）							
許可名称		届出先	許可番号	許可の有効期限	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃PCB	PCB汚染物	廃石綿等	ダイオキシン類
特別収集運搬業産業廃棄物	優良認定	山形県	第00651008236号	自 令和3年4月21日 至 令和10年4月2日	○	○	○	○	○	○	○
		群馬県	第01050008236号	自 令和6年3月7日 至 令和13年3月6日				○	○		
		宮城県	第00450008236号	自 令和3年7月20日 至 令和6年12月22日	○	○	○	○	○	○	○
		秋田県	第00555008236号	自 令和3年10月21日 至 令和8年10月20日	○	○	○	○	○	○	○
		福島県	第00757008236号	自 令和3年7月2日 至 令和8年7月1日	○	○	○	○	○	○	○

				産業廃棄物処分業許可品目 処分法ごと（特別産業廃棄物）						
許可名称		届出先	許可番号	許可の有効期限	処分法	汚泥	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず
産業廃棄物処分業	優良認定	山形市	第13021008236号	自 令和2年3月23日 至 令和8年3月26日	破碎処分		○	○	○	○
					切断処分		○	○		
					選別処分	○	○	○	○	○
					分離処分		○	○		
					減容固化処分		○	○	○	○
		柏市	第11120008236号	自 令和6年1月30日 至 令和13年1月29日	圧縮梱包処分		○	○	○	○
					破碎処分		○	○	○	○
					圧縮処分		○	○		○

※すべての種類で自動車等破砕物及び特別管理産業廃棄物を除く											
ができる品目です）											
木くず	繊維くず	動植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラスくず コンクリート 陶磁器くず	鋳さい	がれき類	ばいじん	石綿含有 廃棄物	水銀使用 製品廃棄物	水銀含有 ばいじん等
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	◎	◎	◎	○	◎	○	◎	◎	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
○		○		○	○		○	○			
○	○		○	○	○	○	○	○		○	○
○	○	○	○	○	○		○	○		○	○
○	○	○		○				○			
○	○	○	○	○	○		○				
○	○				○		○				
○	○	○	○	○	○	○	○	○			

優良認定許可件数

産業廃棄物収集運搬業	11件
特別管理産業廃棄物収集運搬業	2件
産業廃棄物処分量	2件

2023年度は、群馬県特別管理産業廃棄物収集運搬業許可で優良認定を受けました。
まだ優良認定を受けていない許可証についても、次の更新時申請予定です。

物であるものは除く）		
金属くず	ガラスくず コンクリート 陶磁器くず	がれき類
○	○	○
○	○	
○	○	○
○	○	
○	○	
○	○	

許可名称		届出先	許可番号	許可の有効期限	品目
一般廃棄物	収集運搬業	山形市	山形市指令廃第43-31号	自 令和6年4月1日 至 令和8年3月31日	ごみ
		中山町	11号	自 令和4年10月10日 至 令和6年10月9日	ごみ
	処分業	山形市	山形市指令廃第44-3号	自 令和6年4月1日 至 令和8年3月31日	ごみ
			中間処理（破碎処分・減容固化処分） 木くず・コンクリート類・ガラス、陶磁器くず・紙くず 廃プラスチック類・金属くず		

⑥産廃処理業者としての情報公開

2)収集運搬業

収集運搬車両として登録している車両一覧

2024年3月31日現在

運搬車両の車種			台数	運搬車両の車種			台数
小型移動式クレーン車	12 t 車	1台		ダンプ車	10 t 車	3台	
	8 t 車	1台			6 t 車	2台	
	6 t 車	5台			4 t 車	2台	
	4 t 車	2台			3 t 車	1台	
	2 t 車	3台			2 t 車	1台	
アームロール車	12 t 車	2台		ウイング車	12 t 車	2台	
	6 t 車	5台			バン	1台	
	4 t 車	3台		その他車両	軽トラック	2台	
バックカー車	10 t 車	1台			軽ライトバン	7台	
	6 t 車	2台		合 計		46台	



低公害車の導入状況

低排出ガス基準	台数	全体の割合
平成30年規制適合車	4台	9%
平成28年規制適合車	11台	24%
平成22年規制適合車	13台	28%
平成21年規制適合車	7台	15%
平成19年規制適合車	5台	11%
平成17年規制適合車	5台	11%
平成10年規制適合車	1台	2%
合計	46台	100%

廃棄物の状況に合わせて、コンテナも多種多様準備しております。



現在、35名のドライバーが収集運搬作業に従事おります。
大型車両は一部間違えれば、ドライバー自身や他の人の命を奪い
かねない危険な乗り物です。
そこで弊社では、年に一回の健康診断はもちろん、毎日乗務前に、
事業者(運行管理者等)が、運転者の健康チェックを行い、安全に
運転できる健康状態かどうかを判断し、乗務の可否を決定しており
ます。

⑥産廃処理業者としての情報公開

2)収集運搬業

【積替え保管場所】

施設の所在地
山形県山形市飯塚町字中河原1629番地の5

産業廃棄物の種類	ゴムくず
施設の面積	2.6㎡
保管上限量	2.0㎡
積上げ高さ	1.0m(容器)



積替え保管場所
(ゴムくず)

産業廃棄物の種類	石綿含有廃棄物 【廃プラスチック類・がれき類 ガラスくず等・金属くず】
施設の面積	2.6㎡
保管上限量	2.0㎡
積上げ高さ	1.0m(容器)



積替え保管場所
(石綿含有廃棄物)

積替え保管場所
(水銀使用製品産業廃棄物)



積替え保管場所
(廃乾電池)

産業廃棄物の種類	水銀使用製品産業廃棄物 【廃プラスチック類 金属くず・ガラスくず等】
施設の面積	3.5㎡
保管上限量	2.9㎡
積上げ高さ	2.0m(容器)
産業廃棄物の種類	廃乾電池【汚泥・金属くず】
施設の面積	1.3㎡
保管上限量	0.2㎡
積上げ高さ	1.0m(容器)

2022年度に山形市の産業廃棄物収集運搬業の
積替え保管品目を追加しております

産業廃棄物の種類	汚泥	廃酸	廃アルカリ
施設の面積	0.5㎡	0.5㎡	3.7㎡
保管上限量	0.4㎡	0.4㎡	1.6㎡
積上げ高さ	1.0m(屋内)	1.0m(屋内)	1.0m(屋内)

産業廃棄物の種類	廃油
施設の面積	3.7㎡
保管上限量	1.6㎡
積上げ高さ	1.0m(屋内)



積替え保管場所
(廃油)

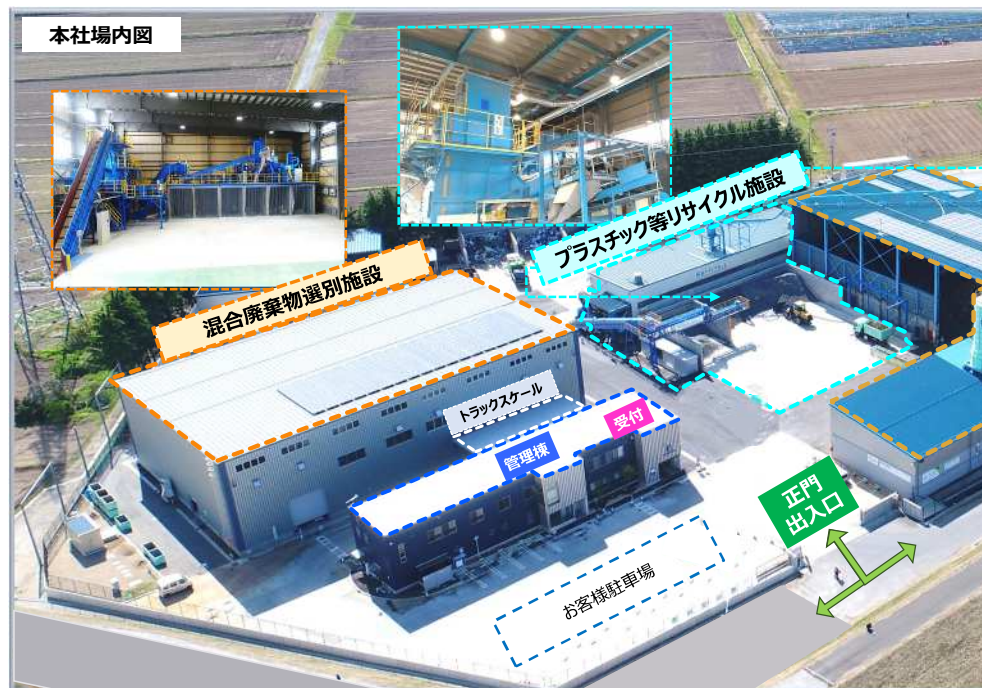
積替え保管場所
(汚泥・廃酸・廃アルカリ)



3) 処分業(本社工場)

【産業廃棄物の処理施設の概要】

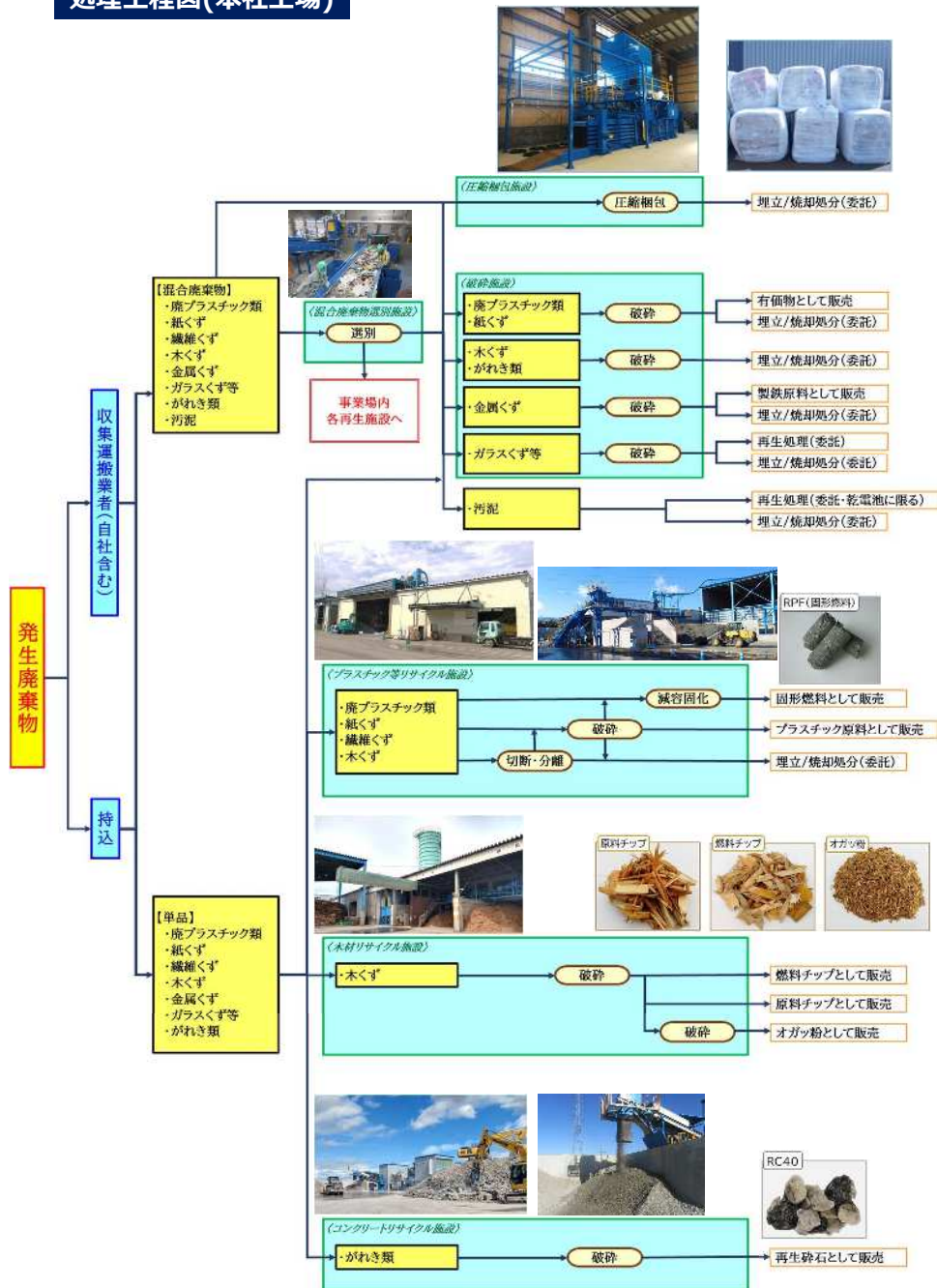
場 所：山形県山形市飯塚町字中河原1629番地の5



施設の種類	設置年月日	処理する 産業廃棄物の種類	処理能力	処理方式	構造及び設備の概要
木材リサイクル施設	1992/12/10	木くず	200 t / 日(8時間)	破碎 ・スイングハンマー方式	・MHM-300 B H(250kW) ・キングシュレダSK200C型(190kW) ・二軸破碎機(22kW×2) ・選別機 ・金属検知器 ・チップサイロ(飛散・発じん防止)
プラスチック等 リサイクル施設	2006/9/1	廃プラスチック類 紙くず・木くず 繊維くず	破碎 54.6 t / 日(12時間) 減容固化 43.7 t / 日(12時間)	破碎 ・一軸せん断破碎 減容固化 ・押し出し成形方式	・破碎機(250kW、75kW) ・成形機(400kW) ・散水ノズル(発じん防止) ・集塵設備(スクラバー式)
分離施設	2007/1/1	廃プラスチック類 紙くず	1.3 t / 日(8時間)	分離 ・巻取り方式	・リワインダーマシン
切断施設	2006/3/1	廃プラスチック類 紙くず	3.8 t / 日(8時間)	切断 ・切断方式	・多目的油圧切断機
混合廃棄物 選別施設	2020/3/24	廃プラスチック類 紙くず・木くず 金属くず がれき類 ガラスくず等 繊維くず・汚泥	320m ³ /日(8時間)	選別 ・選別装置(反発式)	・選別装置(9.2kW) ・集塵機(5.5kW) ・エプロンコンベア(5.5kW) ・風力選別機(27.8kW) ・風力選別機(3.7kW)

施設の種類	設置年月日	処理する 産業廃棄物の種類	処理能力	処理方式	構造及び設備の概要
コンクリート リサイクル施設	2018/8/30	がれき類	800 t / 日(8時間)	破碎 ・圧縮破碎方式	・ジョークラッシャー(75kW) ・磁選機 ・遮音壁(破碎音拡散防止) ・散水設備(粉塵対策) ・堀(処理物の敷地外への流出防止) ・ラバースクリーン(騒音防止)
廃プラスチック類の 破碎施設及び 木くず又はがれき類の 破碎施設	2020/2/1	廃プラスチック類 紙くず・木くず 金属くず・がれき類 ガラスくず等 繊維くず	破碎 249.6 t / 日(12時間)	破碎 ・二軸せん断破碎	・二軸破碎機(200kW) ・磁選機 ・排出コンベア
圧縮梱包施設	2020/2/25	廃プラスチック類 紙くず・木くず 金属くず がれき類 ガラスくず等 繊維くず	370.9 t / 日(12時間)	圧縮梱包 ・圧縮マルチジャンボ プレス機	・圧縮梱包機 ・投入コンベア ・ラッピング機

処理工程図(本社工場)



⑥産廃処理業者としての情報公開

3)処分業(関東支店)

【産業廃棄物の処理施設の概要】

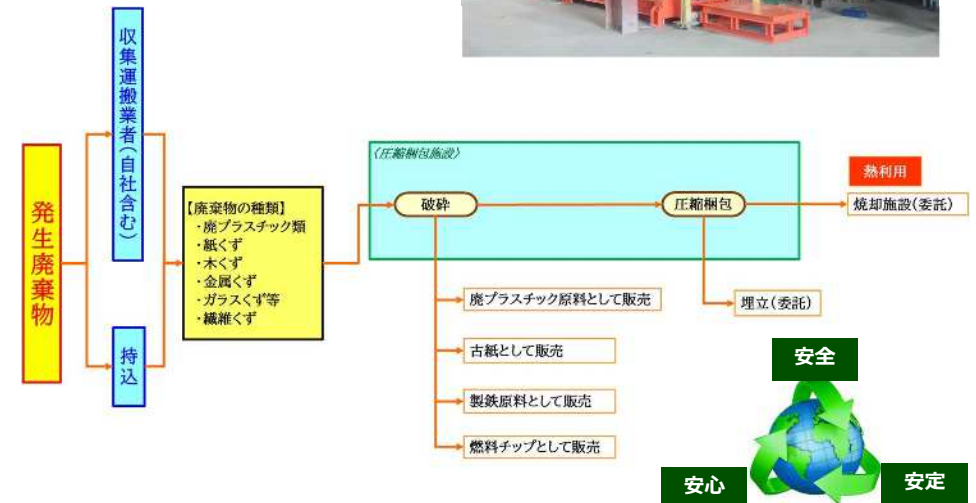
場 所：千葉県柏市新十倉二7-8 十倉二工業団地内



施設の種類	設置年月日	処理する産業廃棄物の種類	処理能力	処理方式	構造及び設備の概要
廃プラスチック類及び木くず又はがれき類の破砕施設	2012/1/18	廃プラスチック類	67.2t/日(24時間)	破砕機 ・軸せん断破砕	・破砕機(150kW) ・磁選機 ・投入コンベア
		紙くず	67.2t/日(24時間)		
		木くず	84.0t/日(24時間)		
		繊維くず	40.8t/日(24時間)		
		金属くず	86.4t/日(24時間)		
		ガラスくず等	93.6t/日(24時間)		
圧縮梱包施設	2020/3/24	廃プラスチック類	72.0t/日(24時間)	圧縮梱包 ・油圧式縦圧縮減容機	・圧縮梱包機 ・油圧ユニット ・結束機 ・排出ローラコンベア
		紙くず	84.0t/日(24時間)		
		繊維くず	86.4t/日(24時間)		
		ガラスくず等	84.0t/日(24時間)		



処理工程図(関東支店)



⑥ 処分業者としての情報公開

4) 受託した産業廃棄物及び一般廃棄物の処理実績 (2023年4月～2024年3月)

◎産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬量

廃棄物の種類	収集運搬量
燃え殻	264.3t
汚泥	277.3t
廃油	20.9t
廃酸	0.0t
廃アルカリ	3.0t
廃プラスチック類	7,630.0t
紙くず	260.3t
木くず	2,615.2t
繊維くず	2.9t
動植物性残さ	94.7t
ゴムくず	0.0t
金属くず	1,339.5t
ガラス・陶磁器くず	2,113.8t
鉱さい	0.0t
がれき類	13,584.6t
ばいじん	0.0t
石綿含有廃棄物	10.6t
金属くず	0.1t
ガラス・陶磁器くず	86.0t
がれき類	18.5t
石膏ボード	23.2t
水銀使用製品	2.7t
金属くず	1.2t
廃プラスチック類	0.8t
特別管理産業廃棄物	3.7t
引火性廃油	0.1t
廃酸 (pH2.0以下)	0.0t
廃アルカリ (pH2.0以下)	4.2t
P C B汚染物	18.7t
廃P C B等	0.8t
2023年度合計	28,376.9t

◎一般廃棄物収集運搬量

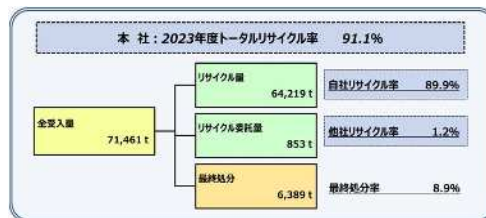
廃棄物の種類	収集運搬量
可燃	203.0 t
不燃	17.0 t
2023年度合計	220.0 t

◎一般廃棄物中間処理量

処分方法	廃棄物の種類	処分量
破砕(可燃)	木くず	232.0 t
	廃プラスチック	
	紙くず	
破砕(不燃)	ガラ陶	43.6 t
	コンクリート類	
	金属	
減容固化(可燃)	廃プラスチック	285.0 t
	紙くず	
2023年度合計		560.6 t

◎産業廃棄物中間処理量

廃棄物の種類	処分方法	処分量(本社)	処分量(関東支店)
廃プラスチック類	減容固化	6,577.7 t	—
	選別	0.1 t	—
	破砕	2,010.4 t	0.98 t
	破砕・圧縮梱包	0.0 t	5,887.34 t
	分離	190.6 t	—
紙くず	減容固化	682.8 t	—
	破砕	0.6 t	0.00 t
	破砕・圧縮梱包	0.0 t	641.96 t
木くず	減容固化	62.3 t	—
	破砕	8,296.3 t	554.59 t
繊維くず	減容固化	16.0 t	—
	破砕	0.0 t	0.00 t
	破砕・圧縮梱包	0.0 t	30.10 t
金属くず	選別	0.9 t	—
	破砕	1,701.4 t	14.50 t
ガラスくず等	選別	0.9 t	—
	破砕	3,883.5 t	—
	破砕・圧縮梱包	0.0 t	1.80 t
がれき類	破砕	48,036.4 t	—
汚泥	選別	0.9 t	—
合計		71,460.8 t	7,131.3 t
2023年度総合計		78,592.1 t	



⑦ 環境測定結果

山形市との公害防止協定に基づく環境測定結果(2023年5月測定)

私たちは日々、周辺環境へ配慮をしながらリサイクル活動をしております。

【結果】

調査時期	項目	規制値	水質			判定
			場内排水① (油水分離槽)	場内排水② (油水分離槽)	生活系排水③ (浄化槽)	
2023年5月 測定値	水素イオン濃度	5.8～8.6	7.5	7.1	5.9	○
	生物化学的酸素要求量	最大60	5.3	2.0	4.0	○
	浮遊物質量	最大60	12	23	10.0	○
	ノルマルヘキサン抽出物質含有量	最大 3	1.0	1.0	1.0	○
2023年12月 測定値	水素イオン濃度	5.8～8.6	7.6	7.1	7.0	○
	生物化学的酸素要求量	最大60	17.0	5.9	21.0	○
	浮遊物質量	最大60	40	28	10.0	○
	ノルマルヘキサン抽出物質含有量	最大 3	1.0	1.0	1.0	○



場内排水・浄化槽
(作業写真)



騒音・振動							
調査時期	規制値	項目	敷地境界線 No.1	敷地境界線 No.2	敷地境界線 No.3	敷地境界線 No.4	判定
2023年5月 測定値（昼）	65 デシベル	騒音	63	60	54	56	○
		振動	50	35	38	44	○
2023年12月 測定値（昼）		騒音	58	63	53	49	○
		振動	50	37	36	34	○
弊社の騒音・振動 測定値範囲							

騒音レベル（デシベル）	
100～120	自動車のクラクション音 電車が通る時のガード下
80～100	建設工事現場 犬の吠える声（周囲3～5m）
60～80	幹線道路の交差点 洗濯機・掃除機の音
40～60	静かな事務所・図書館・公園
20～40	ささやき声・郊外の深夜
0～20	呼吸音

臭気

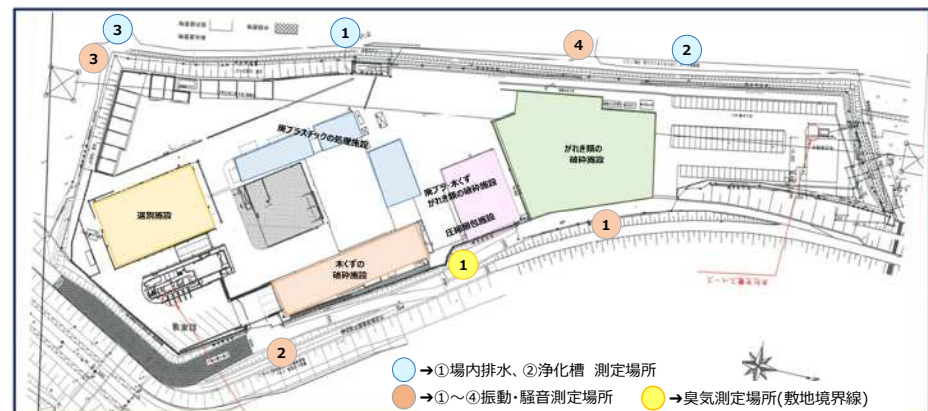


臭気				
対象	項目	規制値	測定値	結果
敷地境界線	臭気濃度	15以下	10未満	○

騒音・振動・臭気測定
(作業写真)



【測定場所図面と測定箇所】



5.環境活動への取り組み

リサイクル型解体事業

アスベスト事前調査→解体工事→収集運搬→リサイクル・適正処理 とワンストップで解体工事を行うことで、お客様の不安と負担の軽減を第一に考えながら、リサイクル事業としての専門知識で地球環境に優しい工事をしております。

アスベスト事前調査 アスベスト調査は専門資格を持つ弊社社員が調査診断を行います

労働安全衛生法や大気汚染防止法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律などで、アスベストによる健康被害の予防や飛散防止等の適切な対策を取ることが求められています。

また令和4年4月1日より、建築物等の解体・改修工事を行う場合は、その規模の大小にかかわらず工事前にすべての建材について石綿含有の有無の事前調査を行い、一定規模以上の工事については、事前調査結果を都道府県等に報告することが義務付けられることになりました。

弊社では、石綿対策の規制が強化されたことを受け、アスベスト調査事業を解体工事と一緒にすることで、お客様の負担を軽減しております。



専門資格 建築物石綿含有建材調査者 多数在籍

解体工事 アスベスト調査チームと解体工事チームは同じ部署なので、引継ぎもスムーズで安心です

一般住宅解体



工場・倉庫解体



ビル解体



アパート解体



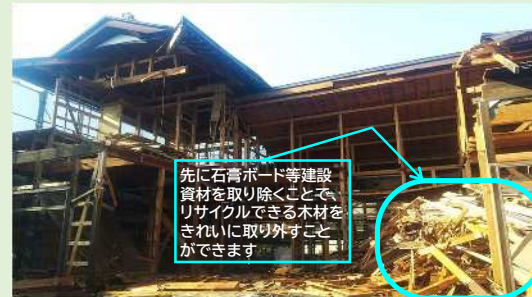
店舗解体



分別解体

建設リサイクル法の対象建設工事では、原則分別解体の実施が義務付けられています。弊社では、建設資材に係る建設資材廃棄物をその種類ごとに分別しつつ、当該工事を計画的に施工する解体工事をおこなっております。

ただ建物を壊すだけでなく、解体前に住宅の構造を調査し分別解体の計画を作成、それから解体工事を進めていきます。



先に石膏ボード等建設資材を取り除くことで、リサイクルできる木材をきれいに取り外すことができます。

標準的な解体工事の手順(木造住宅の場合)

- ①建築設備・内装材の取り外し
※内装材に木材が含まれる場合には、木材と一体化した石膏ボード等の建設資材をあらかじめ取り外してから木材の取り外しをします
- ②屋根ふき材の取り外し
- ③外装材・上部構造部分の取り壊し
- ④基礎及び基礎ぐいの取り壊し

※建築物の構造上により難しい場合はこの限りではありません

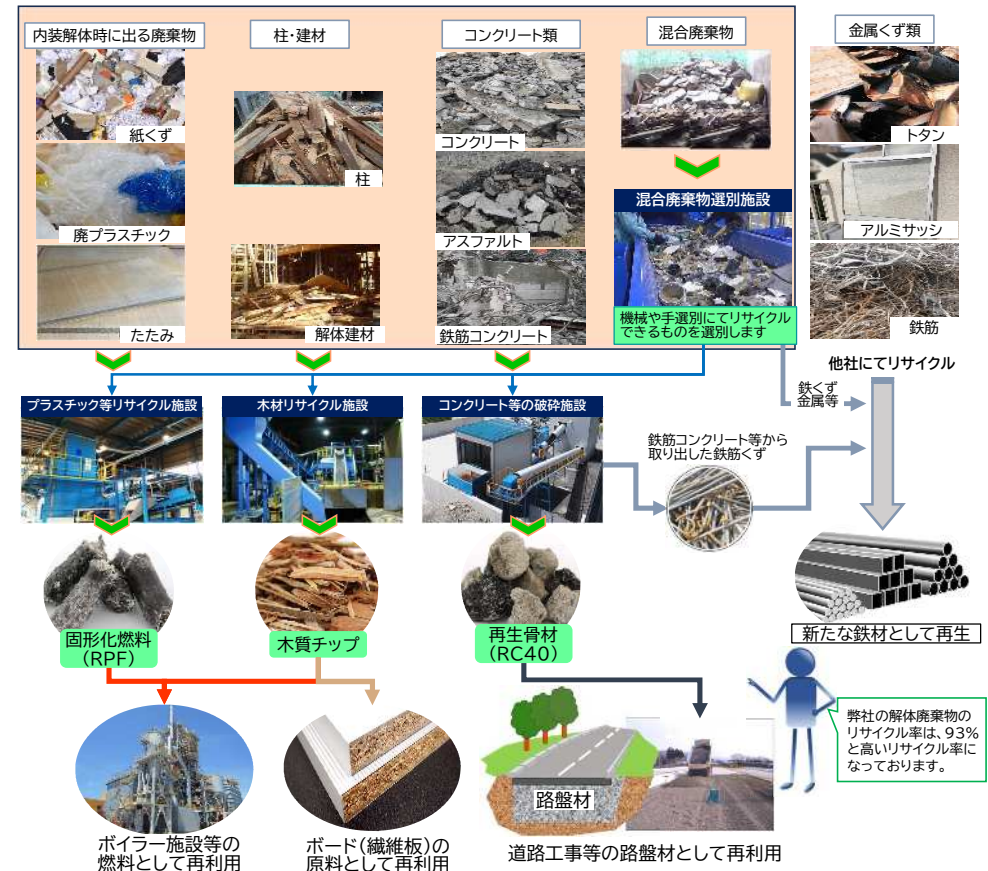
収集運搬 解体工事現場から発生した、解体木材やコンクリート材などは、弊社車両にて、安全、丁寧に回収いたします

イメージ図



運搬の際は、シートを掛ける等、飛散防止対策を心がけております

リサイクル・適正処理 弊社リサイクル施設での処理工程



弊社の解体廃棄物のリサイクル率は、93%と高いリサイクル率になっております。

2023年度 解体工事現場からの排出量

排出量(合計)	7,225,948kg
リサイクル量	6,717,897kg
処分量	508,051kg

弊社解体工事におけるリサイクル率

リサイクル率	再生骨材(RC)	68.8%	93%
	金属(有価物)	21.3%	
	木質チップ	2.8%	
	PRF(固形燃料)	0.1%	
処分率	管理型埋立処分	6.2%	7%
	安定型埋立処分	0.7%	
	その他	0.1%	



お客様が大切にしてきた建物を丁寧に分別解体し、新たな資源にリサイクル。弊社では安心・安全・そして地球環境にやさしい解体作業を心掛けております。



木くずのリサイクル

リサイクル可能な木くずとは



建築用端材

木質パレット



柱材

加工木材

現在、燃料用材としての「燃料チップ」の需要が急拡大しています。弊社では木くずを「木質燃料チップ」に加工して、バイオマスボイラー施設等へ燃料として提供しております。

木くずの年間受入数量
(2023年度実績)
年間約7,448t



燃料チップの他に、パーティクルボードなどに利用する「原料チップ」や畜産施設等で使用する「おが粉」製造もしており、木くずのリサイクル率はほぼ100%になります。

うち、**35%**は燃料チップ
(バイオマス燃料)へ加工



燃料チップが注目される理由

地球環境にやさしいと言われる燃料チップ、その理由はCO₂を増やしていないと考えられているからです。しかし…ここで生じる疑問がひとつ



ものを燃やしたら
二酸化炭素が排出される
でしょ？
それなのになぜ環境に
やさしいの？



もちろん燃料チップも、燃やせば二酸化炭素は排出されます。しかし燃料チップとして使用している木材は、建材用として加工される前は自然に生えていた木であり、その木が成長過程に行う光合成で、空気中の二酸化炭素を吸収し酸素を作り出していたことから、燃焼する際に排出される二酸化炭素は、植物がすでに吸収した分であるという考え方がされております。

わかりやすく図にしてみるとこんな感じです



弊社では受入しているものを廃棄物ではなく資源と考え、循環型社会とは、限りある資源を効率的・有効的に利用し、廃棄物として処理されるはずのものをバイオマス燃料として再利用することで、廃棄物

バイオマス燃料 に向けた弊社の取り組み



弊社では、搬入された紙類・プラスチック類はRPF(固形燃料)の原料とし、化石燃料にかわるエネルギー源を製造するリサイクル活動をしております。

RPFの原料になるもの



分別されたプラスチック類・紙類・繊維くず

年間受入数量(2023年度実績)
プラスチック類:7,831t
紙類: 888t
繊維類: 236t



破砕機



減容固化

うち、約**74%**はRPF
(バイオマス燃料)へ加工



環境への影響が懸念される塩素系を含むプラスチックなどは取り除いているので、品質は安定しております。

RPF(固形燃料)は主に製紙会社等のボイラー施設で石炭の代替品として使用されております

RPFは、化石燃料に対して燃焼時に同一熱量回収を行う過程で、化石燃料よりも約**33%**のCO₂排出量低減効果のある燃料といわれています。(※日本RPF工業会HPの資料より)
RPFを化石燃料の代替燃料として使用することは、CO₂の排出量を減らし、枯渇性資源の節減、低い灰化率により、埋立て処分量も削減でき、地球環境にとってもやさしい燃料です。

RPF(固形燃料)の使用による環境へのメリット



プラスチック製品は私たちの生活を豊かにし、欠かせない存在となっております。

しかし、扱いを間違えると、環境破壊の原因になる製品でもあります。



プラスチックは正しく取り扱えば、ゴミではなく資源になる製品です。

正しい分別と処理で、限りある資源と地球環境を守りましょう。



再利用することで、循環型社会に取り組んでおります。

目することで、持続可能な循環型の社会を表します。

物を減らし資源の有効活用を促進することが、循環型社会の構築の一助になります。

自家消費型太陽光発電【太陽光発電システムの利用状況】



太陽光発電システムの利用状況

棒グラフ：自社電力用

棒グラフ：全量売電用

面グラフ：累計

単位：kwh



太陽光発電2023年度年間実績【年間発電量 111,686kWh】
管理棟消費電力：48,214kwh 太陽光発電(売電)：60,990kwh

2023年度の太陽光パネル年間発電量111,686kWh
一般家庭約20軒分の年間電気使用量に相当します。
※一般家庭(4人家族)の年間電気使用量5,500kWhで計算(省エネルギーセンター発表のデータ)
また太陽光発電によるCO₂削減量は約59tでした。
【CO₂削減量の算出には、まだ未来製作所の基礎排気(約529kg-CO₂/kWh)を利用して計算しております。】



2024年2月 CDP(気候変動)で「B-」スコアと評価されました



カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト

CDP「Carbon Disclosure Project」とは、2000年にイギリスで発足した国際的な環境非政府組織(NGO)です。世界の主要企業の環境活動に関する情報を収集・分析し、気候変動に対する企業の取り組みを8段階(A、A-、B、B-、C、C-、D、D-)で評価しています。

2023年の回答書による評価では弊社は、「B-」の評価をされました。これはアジア地域の平均評価Cよりも高く、非エネルギー公共事業者の平均評価である「B-」と同じ評価となります。



CDPのスコア
4つのレベルと8つの
スコアで成り立っております

スコア：D-、D

下位レベル

情報開示

質問に関する自社情
報の記載

スコア：C-、C

レベル

認識

自社の現状認識、
どのような影響が
有るかの理解

弊社の
評価

スコア：B-、B

レベル

マネジメント

気候リスクや影響の
管理、取組み実施

スコア：A-、A

上位レベル

リーダーシップ

課題の適応・緩和、
脱炭素社会の構築に
先導的な企業か

6.2023年度C S R活動実績とSDG s 目標一覧

詳しい活動内容は、掲載ページをご覧ください。

活動内容	該当するSDG sの目標	掲載ページ
CO ₂ 排出量削減 (SBT認定)		7～9
水道使用量削減		10
廃棄物等の排出量の削減		11～12
物損事故の削減 (安全)		13
地域貢献活動		14
地域貢献活動① 非常時ガソリン供給訓練		14
地域貢献活動② マイロード清掃活動		14
地域貢献活動③ 献血活動		14
収集運搬業		19
環境測定		26
リサイクル型解体工事業		27～28
バイオマス燃料		29～30
自家消費型太陽光発電		31
CDP(気候変動)で評価されました		31
「いざ」という時のために【訓練】		33
「やまがたスマイル企業」に認定されました		33
芋煮フェス開催		33
安全衛生大会開催		33
お客様へのプレゼント		33
山形社会福祉協議会様へ食品を寄付		34
山形市西公園へベンチ寄贈		34
施設(場内)見学へ来社いただきました		34
能登半島地震への義援金寄付		34
保育園へお散歩カートを寄贈		34

「いざ」という時のために

心肺蘇生(AED)の講習会と地震を想定した避難訓練を実施しました

2023年10月24日(火)
山形市消防本部の方に協力いただき、
応急手当講習を実施いたしました。
各部署・チームより15名が参加し、
傷病者発見から意識確認、胸骨圧迫、
AEDの使用法などの一連の流れを学びました。



カットバン、包帯、ガーゼ、止血用のタ
オル、ハサミ・ピンセットなど、不足し
ているものがあれば補充しています。

第一種衛生管理者試験に
合格した救護班メンバーが、
会社独自のマニュアルを
作成しております。



付属品は備え付けられ
てあるか、使用期限な
どを点検します



2024年1月13日(土)
通常営業中に山形市内で震度6強の地震を観測。
大規模な停電、さらに工場内で火災が発生したことを想定した避難訓練を実施いたしました。

【訓練・訓練】「緊急地震速報です、強い揺れに注意してください。」



棚やガラス製の窓から
離れ、揺れが落ちつく
まで、机の下などに隠
れ身を守る



停電のため場内アナウ
ンスが使用できないこ
とを想定し、無線機を
使用して、安全な避難
場所に指示誘導する



それぞれの避難場所
で、安否確認をおこなう



けがが発生。
担架による搬送を練習



場内に火災発生！
自衛消防隊による、
消火訓練開始

CSR活動報告

「やまがたスマイル企業＝DIAMOND＝」に認定されました

「ワーク・ライフ・バランス」「女性の活躍推進」などに積極的に取り組んでいることが認められ
「ダイヤモンドスマイル企業」の認定を受けました。
これからもみんなの笑顔が増えるように、働きやすい職場づくりに取り組んで参ります。



お客様から大好評の芋煮フェスを開催しました

山形の秋、クリーンシステムの秋といえば、芋煮フェス。
300人前が作れる大鍋で山形名物の芋煮を作り、日頃より弊社の
リサイクル活動へご協力いただいているお客様をおもてなしました。
ご参加いただいたお客様からは、大変喜ばれるイベントとなっています。



山形の
2大名物
グルメ

CSグループ 安全衛生大会を開催しました

2月3日にクリーンシステムグループ全役職員並びに
協力企業総勢約180名の参加による、第7回安全衛生大会を開催しました。
永年勤続表彰、無事故表彰等の表彰の後に、本社・関東支店・県南チップの各代表に
よる安全衛生計画の発表、そして全員で安全宣言・安全スローガンの唱和をおこないました。



『高めよう 一歩先読む安全意識
未来に繋げるゼロ災害』

お越しいただいたお客様へ心を込めてプレゼント

毎年恒例の、クリスマスとバレンタインにお菓子の詰め合わせプレゼント企画。
寒い中、来社していただいたお客様へ感謝の気持ちを込めて渡しております。
今回もお客様には大変喜ばれ、好評なイベントでした。



バレンタイン

クリスマス

CSR活動報告

山形市社会福祉協議会へ食品を寄付いたしました

2023年度は4月と6月の2回、
サバの味噌煮やバックごはんとかレー、などの食品を山形市社会福祉
協議会様に寄付いたしました。
コロナ禍の影響がまだ続いているのと物価高の影響も重なり、困窮されて
いる方がたくさんいらっしゃるということです。
今後も微力ながら、困っている方々の支えになれる企業でありたいと思います。



サバの味噌煮と
ハンバーグ煮込み
各50食分



ごはん約250食分
カレー 60食分

食品寄付等の活動が認められ、 山形市社会福祉協議会より感謝状をいただきました

10月25日(水) 山形市民総合社会福祉大会が執り行われました。
今年は食品寄付を通じて社会福祉への貢献が認められ、本大会において
山形市社会福祉協議会より感謝状をいただきました。弊社では今後ともこの
取り組みを継続して参ります。



山形市西公園に健康機能付きベンチを寄贈いたしました

2022年10月の自社イベントにて「SDGs 募金」を実施。
イベントに参加して頂いた約300名のお客様よりご協賛して頂いた募金と
会社の拠出金を合わせ、この度山形市の西公園に健康機能付きベンチを
寄贈致しました。
このベンチは、背筋のストレッチや腰痛予防の効果が期待できるものです。
寒い冬も明け気持ちのよい気候になり公園を利用する方も増えるようです。
是非ご使用頂き、健康増進の一助となれば幸いです。
またこちらのベンチ寄贈により、公園環境整備への貢献が認められ、
山形市より感謝状を頂きました。



SDGs 募金の様子



健康機能付きベンチ



感謝状をいただきました

施設(場内)見学に多くの団体様が来社いたしました

コロナウイルス5類感染症以降後、弊社施設見学へ多くの団体様にお越しいただきました。(15団体)
来社された多くのお客様が、リサイクル事業に興味を持てただけなこと、大変うれしく思います。
弊社は山形県環境学習支援団体の認定を受けており、施設見学の予約を随時受付しております。
ご興味のある方はお気軽にご連絡ください。



一般の団体様



千葉県産業廃棄物
処理業協同組合様



山形市内の高校生



令和6年能登半島地震の義援金を寄付いたしました

令和6年(2024年)1月に発生した能登地方を震源とする地震で被災された
方々を支援するため、弊社ができる支援ということで、グループ全体で義援金を募り、
従業員有志及び協力会また、会社の拠出を合わせ50万円の寄付を行いました。
私共は少しでも被災地の皆様の安全と一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。



近所の保育園にお散歩カートをお贈りいたしました

弊社及び弊社協力会社をはじめ、多くの支援者(教育機関、市町村など)から
いただいたエコキャップ、アルミ缶、プルタブ等でごこの散歩カートを購入し、近所の保育園へ
寄贈いたしました。

未来ある子供達の健やかな成長の支援につながることを願っています。

